様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年５月２２日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2008～2012
課題番号：２０５２０２０９
研究課題名（和文）　モダニスト四重奏文学の共時的分析

研究課題名（英文）　Synchronic Analyses of Modernist Musico-Literary Quartets

研究代表者
馬籠　清子（MAGOME　KIYOKO）
筑波大学・人文社会系・講師
研究者番号：６０４６３８１６

研究成果の概要（和文）：世界各地で同時発生した「モダニスト四重奏文学」を、社会的・歴史的コンテクストに注目しながら共時的に分析した。特に、古代ギリシャの時代から、世界観・宇宙観と密接な関わりを持ってきた「４」という数が、なぜ、この時代に世界各地の文学の中で「四重奏」という特定の音楽的イメージと結びつく形をとって爆発的に復活したのかという理由を指摘した。また、研究成果は、モダニズム期以降の変化を分析する次の科研費研究課題「２０世紀半ばのカルテット的世界観の分析」の土台となることとなった。

研究成果の概要（英文）：In this study, modernist musico-literary quartets—which appeared almost simultaneously all over the world—were examined from musico-literary, socio-historic perspectives. The main focus was placed on the fact that the number “4” had played important, symbolic roles since the age of ancient Greece as well as the question why the number revived dramatically in terms of musico-literary quartets. The result of this study is going to be the basis of the next Kaken research on the musico-literary quartets between the 1940s and the 1960s.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	700,000	210,000	910,000
２００９年度	500,000	150,000	650,000
２０１０年度	500,000	150,000	650,000
２０１１年度	500,000	150,000	650,000
２０１２年度	500,000	150,000	650,000
総　計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学
キーワード：モダニスト文学・モダニスト音楽・四重奏

１．研究開始当初の背景

（１）研究開始までの約１０年間、アメリカの大学において、musico-literary, socio-aesthetic studies という学際研究に従事していた。その間は、１８９０年から現代までのアメリカ文学と西洋音楽との関係を中心に分析をすすめていたが、拠点を日本に移したことによって、この学際分野における新たなテーマ「モダニスト四重奏文学の共時的分析」に取り組むこととなった。

（２）日米両国において、音楽を使ったある１つの文学作品、あるいは、音楽をよく使うある１人の作家についての優れた分析は、数多く発表されてきた。しかし、複数の音楽的文学作品や音楽的作家達の直接的・間接的関

係に注目し、音楽と文学の緊密な交わりはもちろん、その社会的・歴史的コンテクストまでをも視野に入れて、体系的な musico-literary, socio-aesthetic studies を行う研究者は、まだ少ない。そこで、「モダニスト四重奏文学の共時的分析」を通して、この学際分野とその研究成果を効果的に紹介できるよう努力したいと考えた。

２．研究の目的

（１）最大の目的は、古代ギリシャの時代から、西洋での世界観・宇宙観と深い関係のある「４」という数が、なぜ、モダニズムの時代に「四重奏文学」という形で同時発生的に現れたのかという謎を探ることである。多くのコズモポリタン的モダニスト作家達によって、様々な「四重奏文学」が生み出されているが、なぜ「四重奏文学」が繰り返し登場したのか、どうして芸術家達は「四重奏」というディスコースにとりつかれていたのか、それが一体何を意味するのか、ということを、共時的に掘り下げていく。

（２）「モダニスト四重奏文学」の共時的分析に加え、その土台・背景となっている「４」という数にも注目し、「４」の象徴的意味合いや役割、変化について、通時的分析を進める。特に、古代ギリシャのエンペドクレスらの考えに代表される四大元素（火、水、土、空気）や各種四要素（四季、四体液、四気質、など）をはじめ、これらへの注目と表現が大いに復活したルネサンス期の芸術、そして、再度の大復活と思われるモダニズム期の芸術家や研究者の仕事を掘り下げる。

３．研究の方法

（１）研究開始時に執筆中であった通時的な研究書、*The Influence of Music on American Literature Since 1890: A History of Aesthetic Counterpoint* の第３章、“Modernist Musico-Literary, Socio-Aesthetic Discourse of Centrifugal and Centripetal Power: The Image of Constellations”を、「モダニスト四重奏文学の共時的研究」の母胎とする。この研究書の第３章では、アメリカ出身の作家と当時アメリカで活躍した作家というように、アメリカにまつわる通時的研究の一部として、地理的に大きな制限を加えたが、今度は、ヨーロッパ・植民地・アメリカといった広い地域に視野を広げつつ、時間的にはモダニズムの時代に焦点を絞っていく。

（２）具体的な「モダニスト四重奏文学」の作品分析を丁寧に行う。注目する主な作品は、Jean Rhys の *Quartet*、T. S. Eliot の *Four Quartets*、Thomas Mann の *Doctor Faustus*、Lawrence Durrell の *The Alexandria Quartet*、Doris Lessing の *The Golden Notebook*、Vladimir Nabokov の *Nabokov's Quartet* などである。また、これらの作家・作品と直接的・間接的に関係していたり、同時代に同様の興味を示していたりした Arnold Schönberg, Theodor Adorno, Carl Gustav Jung, Gaston Bachelard らの仕事にも注目する。さらに、「４」という数の歴史に深く関連した Richard Powers の小説 *The Gold Bug Variations* や、Erwin Panofsky らの仕事も参考にする。

４．研究成果

（１）アメリカで１０年間ほど取り組んできた研究成果であり、また、本研究の出発点でもある *The Influence of Music on American Literature Since 1890: A History of Aesthetic Counterpoint* を、２００８年にアメリカの The Edwin Mellen Press から出版した。また、この研究書で扱った内容の一部を発展させ、２００８年、および２００９年に、日本語の論文で、musico-literary, socio-aesthetic studies の具体的研究例として日本に紹介した。

（２）２００９年からは、本研究の分析対象作品や注目点のひとつひとつに取り組んだ。“Transition from Modernist to Postmodernist Quartets: Lawrence Durrell's and Vladimir Nabokov's Musico-Literary Quartets”では、１９６０年代に、２人の世界的に有名な作家が、それぞれ「四重奏」という枠組みの中に４つの独立した作品を入れ、その中心に「アレクサンドリア」と「ロシア」という特定の土地を据えながら、ディスコース全体を柔軟に拡大させていくという特徴に注目した。これは、２０世紀前半のモダニスト的四重奏音楽や四重奏文学に顕著な、４つの要素が象徴的な中心へと向かう力と中心から離れる力とのせめぎ合いの中で極度に緊張感を高めるというパターンとは、かなり違った特徴を示しており、ここに、モダニズムからポストモダニズムへのひとつの変化を見ることができると指摘した。

（３）“Democracy Realized through Music and Its Collaboration with Literature”は、「デモクラシーにまつわる芸術」という特集号の公募に応募して採用されたもので、音楽や、音楽と文学とのコラボレーションを通して、デモクラシーを経験・実現する可能性について分析した。最も参考になる最近の資料として、ピアニスト・指揮者であるダニエル・バレンボイムの『バレンボイム音楽論――対話と共存のフーガ』を取り上げつつ、音楽特有の理論・構造である「対位法」が、その「姉妹芸術」である文学とコラボレーション

をすることの重要性について、自らの授業での実験を紹介・分析しつつ論じた。「モダニスト四重奏文学の共時的研究」を含めた musico-literary, socio-aesthetic studies が、研究者間のみでの興味の対象であるだけでなく、授業などを通して、ささやかながらも社会への刺激となり得るということを示した。

（４）"How Can Everything Come from Four Simple Bases?": Perceptions of the World through Richard Powers's *The Gold Bug Variations*"では、アメリカの現代作家 Richard Powers が小説のテーマとして扱う「世界は４つの単純な要素から成っている」という考えを分析した。作品全体が、「４」にまつわる古代ギリシャから現在までの西洋的世界観・宇宙観を強烈に反映しており、私が分析を進める２０世紀半ばの四重奏文学も、その伝統の一部と見做すことができるからである。Powers に刺激され、古代ギリや四大元素から成る世界観・宇宙観、四体液説や四気質説、ルネサンス期の四気質、四季、四大元素にまつわる作品などを分析した。また、本研究の分析対象であるモダニスト四重奏文学はもちろん、同時代の心理学者 C. G. Jung や科学哲学者 Gaston Bachelard の「４」の伝統への執着にも注目した。さらに、１９５３年以降、最もインパクトの強い「４で構成される世界」とは、４つの塩基を持った DNA 二重螺旋構造のイメージではないかと仄めかす Powers の小説の視点は、今後の研究の方向性について考える良い刺激となった。

（５）"Secret Function of a String Quartet in Doris Lessing's *The Golden Notebook*"では、この小説の中に、あからさまな重要性を帯びた音楽の要素はほとんど見当たらないにも関わらず、実は、弦楽四重奏のダイナミックなイメージが、主人公の「(ユング心理学で言う）個性化の過程」の隠れた原動力になっていると指摘し、ポイントとなる幾つかの場面を引用・分析しながら論じた。作品のタイトルに、はっきりと "quartet"の文字が入っているわけではなくても、Lessing のこの作品や、Thomas Mann の *Doctor Faustus* のように、「四重奏」が小説全体の原動力や、重要な転換点を生み出す力として、密かに、そして効果的に機能し得るという点を、示すことができたと思う。また、Lessing の作品は、モダニズム期から次の時代への転換期の四重奏文学を代表するものとして、研究の発展性という点でも意味のある分析となった。

（６）これまでに挙げた研究書や論文と関連した内容は、日本国内と海外での学会で、口頭でも発表した。特に、２０１０年に参加した The International Lawrence Durrell Society Conference では、聴衆から、貴重な意見ばかりでなく、後日、入手困難な資料のコピーまでをもいただき、とても有意義であった。

（７）研究の成果は、「総合科目」や「アメリカ文学」といった自らの担当授業の中でも、十分に活用することができ、学生への刺激ともなったのではないかと思う。

（８）この研究を進める中で、モダニズムの時代は、四重奏文学が発生し始めた時期にあたり、この点でとても重要ではあるが、より濃厚で規模の大きな「カルテット的世界観」を扱う作品は、むしろ、その次の時代（１９４０年代～１９６０年代）に集中しているということが明らかになった。この部分を丁寧に分析していくことが、次の科研費研究課題「２０世紀半ばのカルテット的世界観の分析」となり、２０１３年度から２０１７年度にかけて取り組んでいく。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

（１）Magome, Kiyoko. "Secret Function of a String Quartet in Doris Lessing's *The Golden Notebook*." *Notes on Contemporary Literature.* 43 (1): 2013, 2-4. 単著. [米国・査読付]

（２）Magome, Kiyoko. "How Can Everything Come from Four Simple Bases?": Perceptions of the World through Richard Powers's *The Gold Bug Variations*." *Notes on Contemporary Literature* 41 (5): 2011, 6-8. 単著. [米国・査読付]

（３）Magome, Kiyoko. "Democracy Realized through Music and Its Collaboration with Literature." *Soundings: An Interdisciplinary Journal* 92 (3-4): 2010, 331-46. 単著. ［米国・査読付］

（４）Magome, Kiyoko. "Transition from Modernist to Postmodernist Quartets: Lawrence Durrell's and Vladimir Nabokov's Musico-Literary Quartets." *Notes on Contemporary Literature* 39 (5): 2009, 7-9. 単著. [米国・査読付]

（５）馬籠清子「音楽は、その姉妹である文学をどう刺激するか？」『筑波英語教育：創刊三十周年記念特別号』１３０～３４頁、

２００９年。単著。［査読なし］

（６）馬籠清子「文学が音楽を通して体験させるアメリカ資本主義 : William Gaddisが作る聴覚的ディスコース」『日本英文学会第８０回大会Proceedings』１５８～６０頁、２００８年。単著。[査読なし]

〔学会発表〕（計３件）
（１）Magome, Kiyoko. “Lawrence Durrell’s Alexandria in the Discursive Structure of ‘One and Four’.” Presented at the International Lawrence Durrell Society Conference, New Orleans, LA, U.S.A. July 8, 2010.

（２）馬籠清子「音楽は、その姉妹である文学をどう刺激するか？」（筑波英語教育学会第２８回大会）、２００８年６月２１日、筑波大学。

（３）馬籠清子「文学が音楽を通して体験させるアメリカ資本主義」（日本英文学会第８０回全国大会 SYMPOSIA 第 7 部門 : 資本主義とアメリカ文学）、２００８年５月２５日、広島大学。

〔図書〕（計１件）
（１）Magome, Kiyoko. *The Influence of Music on American Literature Since 1890: A History of Aesthetic Counterpoint*. Lewiston: The Edwin Mellen Press, 2008. 1-282. [米国・査読付]

６．研究組織
(1)研究代表者
馬籠　清子（MAGOME KIYOKO）
筑波大学・人文社会系・講師
研究者番号：６０４６３８１６